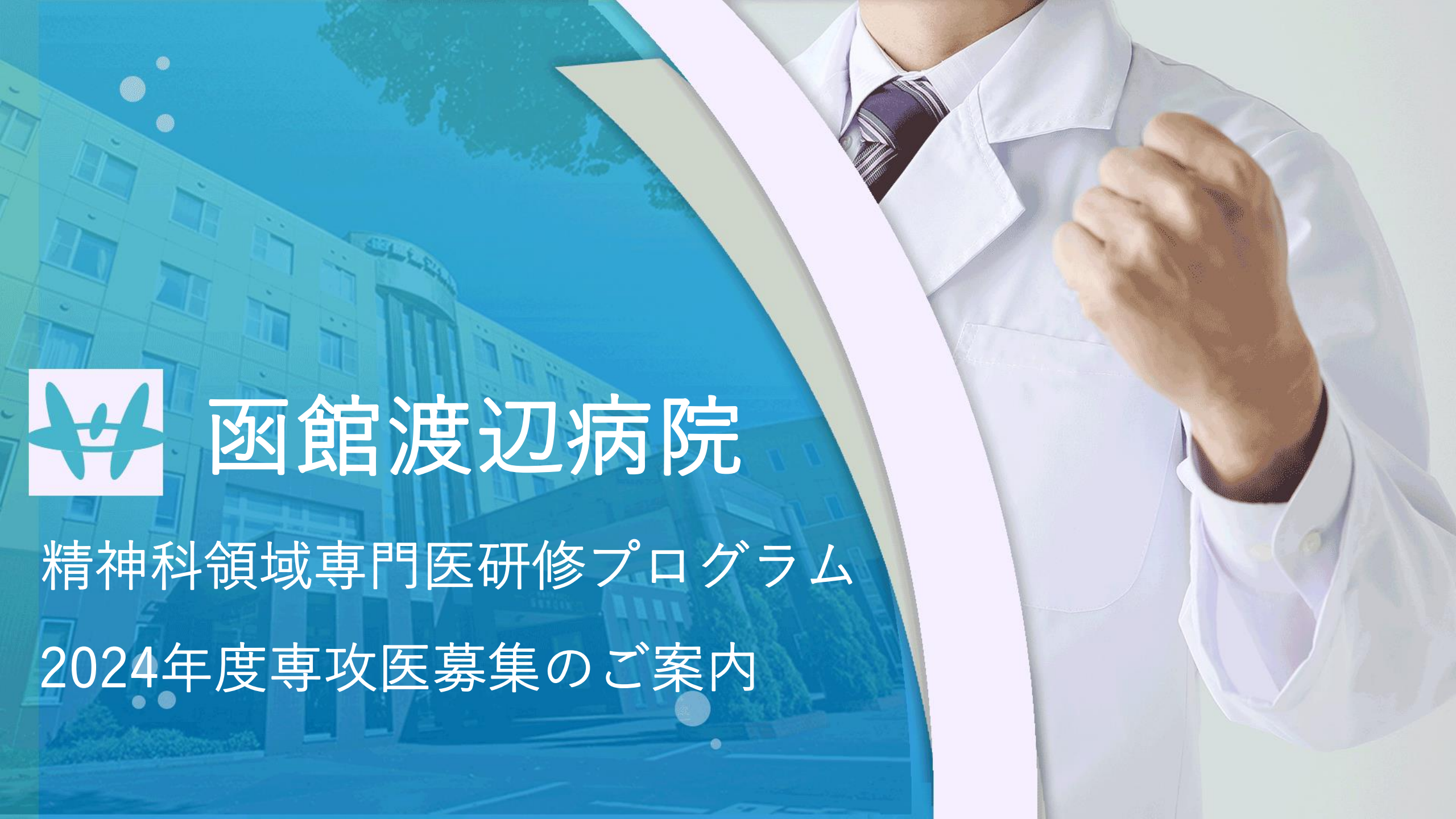
函館渡辺病院

精神科領域専門医研修プログラム

2024年度専攻医募集のご案内



函館市の夜景・函館戦争の古戦場の五稜郭

精神科専攻医研修プログラム概要 1

- 地域に根差した精神科臨床に携わること
- それこそが一生の仕事と考える精神科専攻医
- 良質・適切で、安全・安心な精神科医療の担い手となっていただくプログラム

精神科専攻医研修プログラム概要 2

- ☑ 地域での医療・福祉の中核であり、豊富な症例を経験できる基幹型病院
- ☑ 従来から人事交流の密な**北海道大学病院**をはじめ、**東京医科大学病院、東京都立松沢病院、国立精神・神経医療研究センター病院**という精神科高度専門医療研究施設が連携病院

精神科専攻医研修プログラム概要 3

北海道大学病院

東京医科大学病院

函館渡辺病院

都立松沢病院

国立精神・神経医療研究センター病院

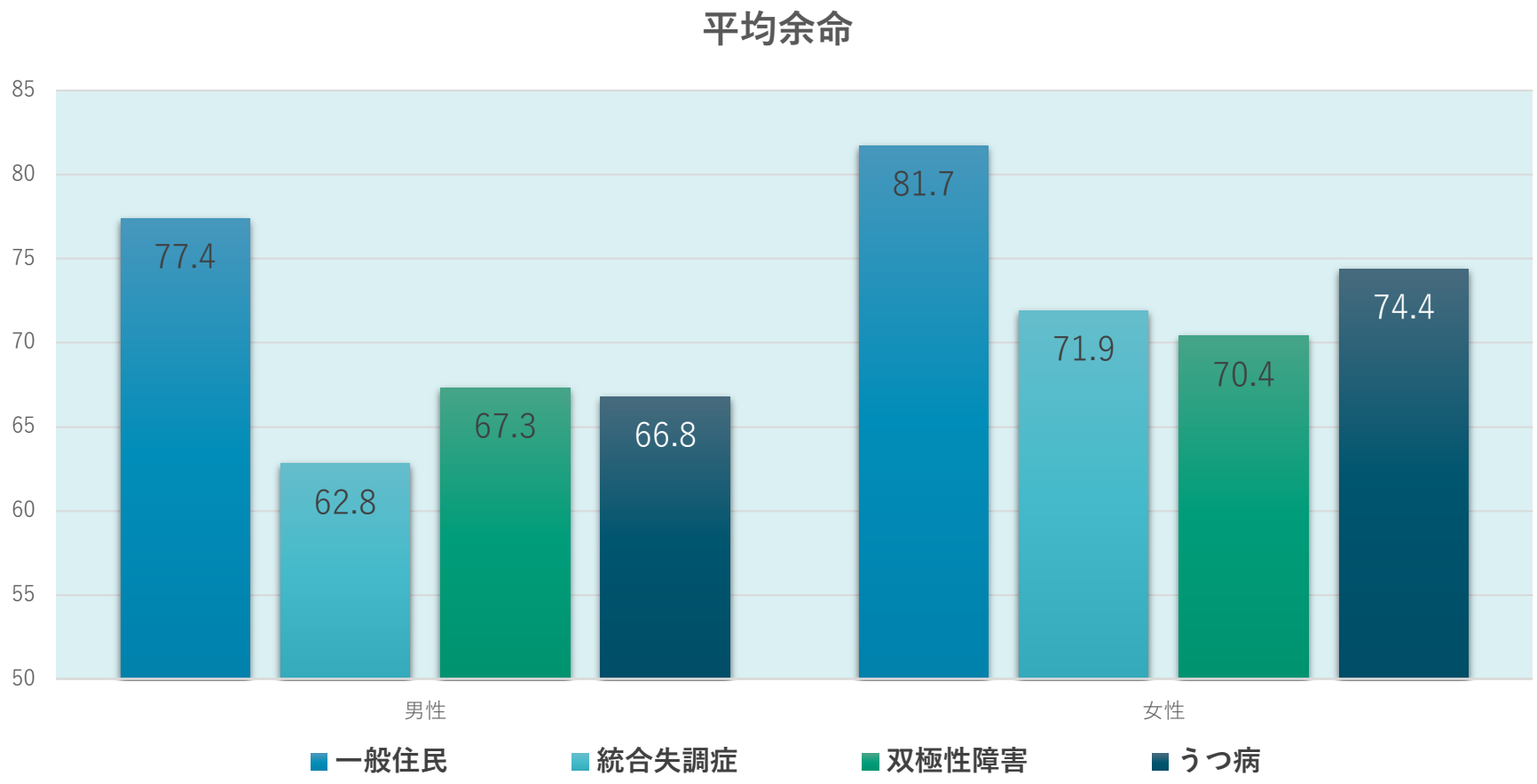
精神科専攻医研修プログラム概要 4

- 各大学や精神科高度専門医療研究施設での臨床や研究にも触れ、論理的な思考方法の訓練を受けることが可能
- 各専攻医の多様なニーズに対応可能となるよう多彩なプログラムで構成されている

精神障がい者の生命予後

- WHOは2018.11にメンタルヘルスのエビデンス調査に基づき、統合失調症や双極性感情障害などの精神疾患患者が同年齢の一般人と比較し、平均余命が10年以上短く、その原因の多くは身体的健康管理の問題であると警告している

精神障がい者の生命予後



Chang CK,et,al,
PLoS One
2011;6(5):e19590

函館渡辺病院とは？

- 開設者の渡辺栄市は、「精神障がい者も万全な身体的治療を受けられなければならない」との決意に基づき、昭和25年精神科病院開設当初から外科を併設した

函館渡辺病院とは？

現在は、

一般内科・呼吸器内科・消化器内科
循環器内科・皮膚科・整形外科
外科・麻酔科　　などを開設

身体科常勤医師　：17名（各学会専門医10名）
　　非常勤医師　：　7名

精神科と連携し、「こころと身体のトータル医療を実践」

函館渡辺病院とは？

- 精神科医師
  常 勤　　医 師：１３名（指導医６名）
  非 常 勤 医 師：　3名

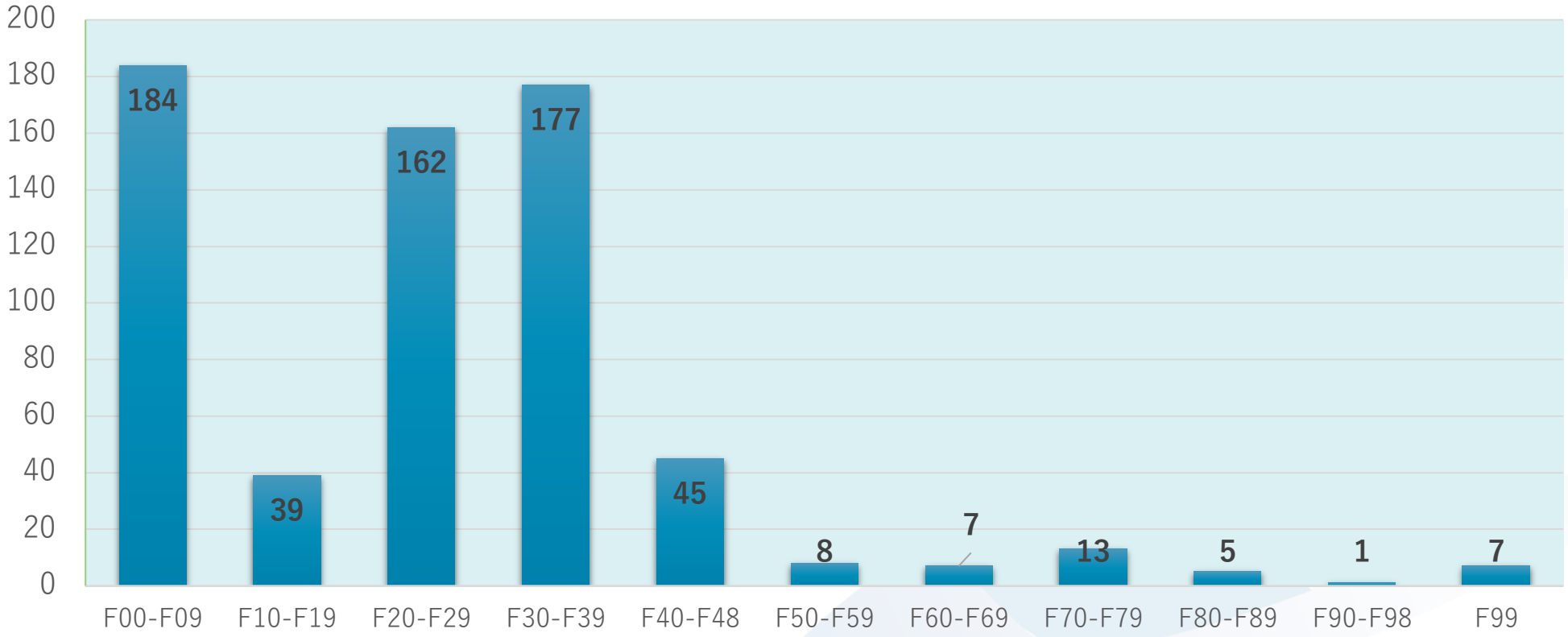
- 800床あった精神科病床を443床に削減し、
  精神デイケア・訪問看護・就労支援
  を実施している

函館渡辺病院とは？

- 精神科救急医療により、社会医療法人の認可を受け、年間120日の精神科救急を担当
- 一般病床120床と精神科病床59床の身体合併症病棟を有する全国的にも稀な精神科中心のいわゆる総合病院
- 精神病床在院日数➡144.9日（R5.9月実績）

函館渡辺病院とは？

退院患者精神疾患中分類別疾病統計



函館渡辺病院への連絡方法

見　学

随時受け付けていますので、ご都合に合わせて申し込みください。

応　募

履歴書を病院まで送付してください。受領後に志望理由や要望事項並びに医師免許証のコピーなどの確認を行わせていただきます。

函館渡辺病院への連絡方法

〒 042-8678
函館市湯川町1-31-1
函館渡辺病院　総務課
0138-59-2221

staff-wata@hakodatewatanabe.or.jp

http://www.hakodatewatanabe.or.jp

函館渡辺病院（職場環境）

柔軟な勤務体制

主治医制を基本にし、柔軟にサポートしあう勤務体制となっていますので、余裕をもって勤務することができます。
学会・研究会への出張制度も整っています。

函館渡辺病院（職場環境）

女性医師へのサポート

産休・育休の制度も整い、附属の24時間保育・病児保育、小学校と当施設間の送迎サービスを含めた学童保育での学習指導も行っている「ふじ保育園」を完備しています。

ふじ保育園

函館渡辺病院（職場環境）

働きやすい医局

出身大学、出身医局は様々である医局内は和やかな雰囲気であり、同僚の精神科医だけでなく、身体科の医師達にも相談できます。

函館渡辺病院（職場環境）

働きやすい医局

当直体制：精神科救急指定日(月10回~11回のうち2回程度)

※一般科当直はありません

※オンコールでの指導医による当直診療支援体制

オンコールは月４回程度の輪番体制

（対応件数➡1日平均０～３件程度）

精神科の専門性の研鑽に務め、多職種チームの中での責任のとれる精神科医を目指して

診察場面では患者が主役であることを意識し、治療者は患者の話に傾聴しながら、自分のこころに描いて理解するようにし、短い相づちをいれるなど共感を患者に返して関係を作り、患者自身が内省能力を働かせ、自己修正していくことを促していける精神科医になっていただきたい。

精神科の専門性の研鑽に務め、多職種チームの中での責任のとれる精神科医を目指して

脳科学をはじめ関連諸科学などの進歩を取り入れた病態生理学に裏付けられた、最新の精神医学的な疾病理解に基づくICにより、患者や家族の疾病理解を深めながら、精神科薬物療法を施行し、併せて多職種による患者支援チームと協働で心理・社会的支援を推進していく精神科医になっていただきたい。

精神科の専門性の研鑽に務め、多職種チームの中での責任のとれる精神科医を目指して

一般的な精神科単科病院では経験しにくいリエゾン精神医療を同じ施設の指導医や身体科医並びに多職種チームメンバーと連携して実践できるので、出身大学・出身医局の異なる臨床各科の医師達と何でも相談できる関係性を築いていっていただき、そのような関係性を地域医療全体に拡大していっていただきたい。

治療者が諦めなければ、
統合失調症はよくなる。

（九州帝国大学精神科教授（1925～1945）下田光造先生）

1557年頃、イエズス会の宣教医、ルイス・デ・アルメイダが大友宗麟の豊後の地に府内病院を開設し、附属の医学校を開いて、日本人に医学を教授したのがわが国の西洋医学の黎明であったように、元来、医療の場には教育・研究の場が併設されている伝統がある。

精神科の専門性の研鑽に務め、多職種チームの中での責任のとれる精神科医を目指して

大分市の西洋医術発祥記念像。傷病者の手当てをしながら日本人医療者の指導をするアルメイダ外科医師・医学教授

傷病者の処置をするアルメイダ
（大分市の西洋医術発祥記念像）

精神科の専門性の研鑽に務め、多職種チームの中での責任のとれる精神科医を目指して

本研修プログラムは自身で予診をとった患者の指導医診察に陪席し、指導医と一緒に入院患者を診察して学び、多職種と協働する医療を担当して学び、医学生、初期研修医や同僚専攻医に自分の学んだことを教えて学ぶ経験を積み、教えることで学んでいる指導医とともに成長し、精神科医の専門性を高めていっていただけるように構成されている。

精神科の専門性の研鑽に務め、多職種チームの中での責任のとれる精神科医を目指して

本プログラム責任者は群馬大学名誉教授（精神医学）であり、古代ローマの哲学者セネカの言葉、「Homines, dum docent, discunt、人は教えている間に学ぶ」を臨床から学ぶ医育の基本理念とし、「見て学ぶ」、「やってみて学ぶ」、「教えながら学ぶ」、「当事者から学ぶ」指導態勢を長年構築してきている。当院の精神科教育研究支援センターが多彩な専攻医のニーズにきめ細かく対応する態勢を整えている。

函館渡辺病院（教育研究支援環境）

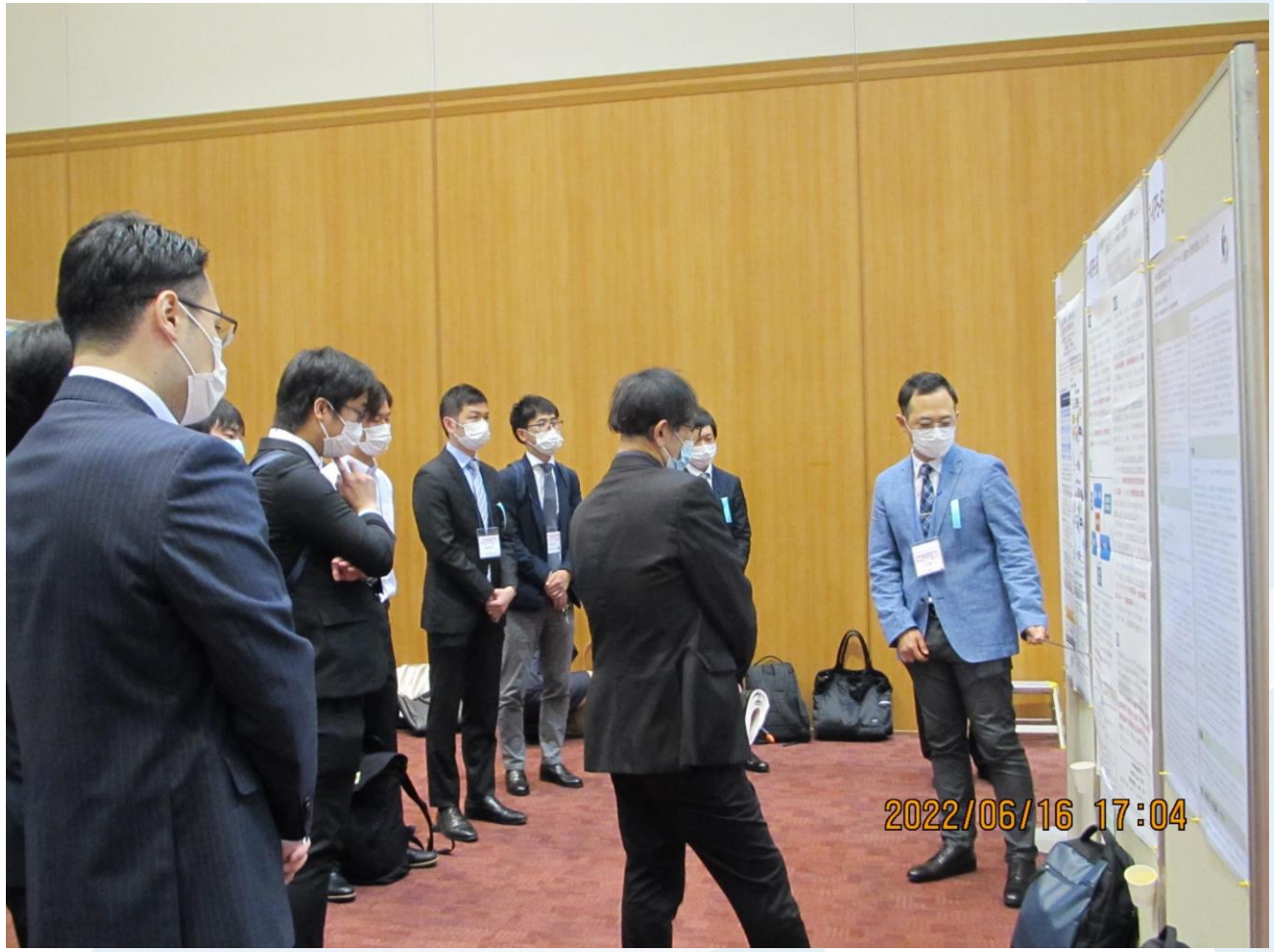
学び研究しやすい医局

2023年度精神科専攻医
（後列中央4名）と
精神科教育研究支援センタースタッフ

函館渡辺病院（教育研究支援環境）

学び研究しやすい医局

第118回日本精神
神経学会学術総会
（福岡市）にて
ポスター発表する
当院精神科専攻医
2022年6月16日



函館を精神科医としてのこころの故郷に

江戸幕府直轄地であった箱館には栗本鋤雲(幕府医官、昌平黌頭取、外国奉行、仏蘭西全権公使などを歴任)が箱館奉行所管轄箱館医学所兼病院を1860(万延元)年に創設した歴史がある。

栗本鋤雲（1822－1897）

写真の建物は箱館医学所兼病院である。明治２年４月撮影の函館中央図書館所蔵のパノラマ写真から。

函館を精神科医としてのこころの故郷に

1868(明治元)年からの箱館戦争ではパリのオテル・デュウ病院・医学校に留学経験のあった高松凌雲が榎本武揚の旧幕府軍に参加し、栗本鋤雲創設の箱館病院の病院長として旧幕府軍と新政府軍の傷病兵を差別することなく懇ろに治療し、わが国の赤十字運動の嚆矢となった。

(吉村昭著「夜明けの雷鳴　医師高松凌雲」文芸春秋社)

高松凌雲（1837－1916）

函館を精神科医としてのこころの故郷に

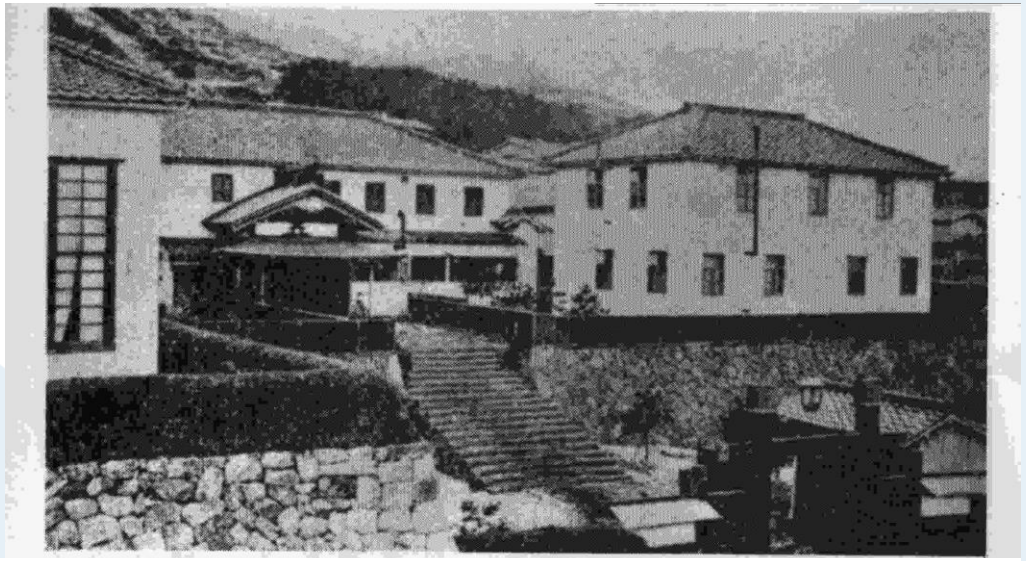
明治政府は箱館病院を1870（明治3）年には大学東校（後の東京大学医学部）管轄函館病院とし、1872年には開拓使管轄函館医学校・病院として、エルドリッチ教授を派遣するなどし、その後、変遷を辿って、現在の市立函館病院となっている。

エルドリッチ
（1843～1901）

函館を精神科医としてのこころの故郷に

函館は江戸時代末期から明治20年代まで医学教育が実施された歴史を有し、わが国の赤十字運動の嚆矢の地でもある。

この函館で**精神科専門医としての第一歩**を踏み出し、函館を精神科医としてのこころの故郷にしていただきたい。



明治4年7月新築の開拓使管轄函館医学校
（北海道大学図書館所蔵）

函館を精神科医としてのこころの故郷に

函館港を見下ろす、1859年開港頃からの教会群

函館を精神科医としてのこころの故郷に

函館市にある垣ノ島遺跡、大船遺跡を含む北海道・北東北の17ヶ所の縄文遺跡群が2021年7月27日に世界文化遺産に登録

垣ノ島遺跡出土の縄文早期末／約6500年前の子どもの足形つき土板

大船遺跡の竪穴住居跡（深さ2.4m）。縄文時代中期（5500年～4000年前）。目の前には噴火湾、向いが伊達・室蘭の山々。

コロナ禍を経験後の生活は地方中核市が最適

この危機の終息後、強権的な監視社会が残るのではなく、市民一人ひとりが自分や周囲の人々のこころをいたわり、民主的で責任ある態度をとり、科学的真実に目を向けて、偏見・差別のない社会への道を選択し、グローバルな協力と連帯を構築していくことが求められている。このことは世界規模の気候変動危機に対しても同様である。そして、コロナ禍以後の地域社会の維持にはメンタルヘルスが決定的に重要である。　（歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリ博士の言葉より）

コロナ禍を経験後の生活は地方中核市が最適

- 縄文時代のこの地では子供の成長を願って足形を取る風習や世界最古の漆製品の作成が行われていた。また幕末から明治には公的な医学所や西洋学術の諸術調所での教育が実施され、箱館病院はわが国の赤十字運動の嚆矢ともなった。
- このような歴史を有する函館は海に囲まれ夏涼しく、雪少なく、一年中生活しやすい、食物の美味しい街なのである。
- メンタルヘルスの担い手の皆さんにはここで精神科医としての専門性を磨き、その技量を地域で遺憾なく発揮し、生涯一臨床医として生き抜いていただきたい。

コロナ禍を経験後の生活は地方中核市が最適

函館近郊、早春の大沼湖畔の水芭蕉

函館渡辺病院の近くの湯の川で
観察された初夏のカワセミ
原 彰彦北大名誉教授撮影・提供

函館を精神科医としてのこころの故郷に

1859年開港頃からの教会群のひとつである元町カトリック教会

ローテーションの一例

パターン A	基幹病院（函館渡辺病院）	基幹病院（函館渡辺病院）	北海道大学病院
パターン B	東京医大病院	基幹病院（函館渡辺病院）	北海道大学病院
パターン C	北海道大学病院	基幹病院（函館渡辺病院）	東京医大病院
パターン D	東京医大病院	基幹病院（函館渡辺病院）	基幹病院（函館渡辺病院）
パターン E	基幹病院（函館渡辺病院）	東京医大病院	北海道大学病院
パターン F	都立松沢病院	基幹病院（函館渡辺病院）	基幹病院（函館渡辺病院）
パターン G	国立精神・神経医療研究センター病院	基幹病院（函館渡辺病院）	都立松沢病院
パターン H	基幹病院（函館渡辺病院）	東京医大病院	国立精神・神経医療研究センター病院

上記、ローテーションパターンは一例です。個別の対応も可です